

Special Event .1



ベン・E・キング & 村田隆一 with HIS BIG BAND



ベン・E・キング

東京 J A Z Z 2 0 1 2

今年も国内外多くのサクソ奏者が盛り上げた日本最大のジャズイベント

今や世界でも指折りの大型ジャズフェスティバルとなった「東京JAZZ」。今年で11回目を迎えて、都心に晩夏を告げる風物詩となった感もある一大イベントが例年通り有楽町の東京国際フォーラム ホールAほかで9/7(金)から9/9(日)の3日間に亘って開催された。ソロプレイヤーとして、バンドメンバーとして、はたまたセクションの一員として、今年も多くのサクソ奏者が「東京JAZZ」のステージを彩った。その模様をレポートしよう。 Report:櫻井隆幸 協力:東京JAZZ事務局

首都圏で唯一となった夏のジャズフェスティバルである「東京JAZZ」。すっかり、「東京に夏の終りを告げるイベント」として定着した。今年も有楽町の東京国際フォーラムを中心とした会場で9月8日(土)と9日(日)をメインに行なわれた。そのメイン会場であるホールAでは、土曜と日曜にそれぞれ「昼の部」と「夜の部」の二部構成で熱いステージが繰り広げられたのだった。サクソ奏者のステージを中心に報告しよう。

まず、「THE SONGS」と題された8日の昼の部、TAKE 6に続いて登場したのがベン・E・キングだ。そのバックを務めたのが村田隆一(Tb)率いるビッグバンド。このサクソ・セクションが凄かった。アルトに本田雅人と近藤和彦、テナーに竹野昌邦と本間得人、そしてバリトンが吉

田治。日本のセクション・サクソ奏者をトップから5人集めましたというように顔触れで、実際に出来たサウンドも見事なもの。まずバンドだけで2曲演奏してからベン・E・キングが登場したのだが、赤いバラを手渡すという演出も洒落ていた。このキング、自らのルーツはジャズにあると言っていたが、披露したのは「スバニッシュ・ハーレム」や「ディス・マジック・モーメント」に、自身の大ヒット「スタンド・バイ・ミー」などのR&Bナンバーばかり。それを村田率いるバンドが華麗に、かつ出しゃばらずにバックに徹して盛り上げたのだった。

続く出演者が御大パート・バカラックとオーケストラだ。ここでのサクソとフルートの奏者はデニス・ウィルソンというベテラン。バカラックは管楽器のサウンドに特徴があるの

だが、このウィルソンも、トランペットのトム・エレンと一緒に華麗にバカラック・サウンドを作っていた。この日の夜の部で出演が予定されていた大ベテラン・サクソ奏者のオーネット・コールマンだが、「体調不良の為に急遽来日中止」という発表。82歳という年齢だけにファンを心配させたが、実際には食あたりを起こしての来日中止とのことだとか。まだまだ健康だと思われる。翌9日「GROOVE」と題された昼の部、オープニングはニューヨークのアンダーグラウンド・シーンで活動をしているバルカン・ビート・ボックスという6人組。いわゆるクラブ系の激しいビートが身上的グループだ。そこに日本からソイル&ピンブセッションズも加わり、賑やかというよりも騒々しくすらあるサウンドを展開。サクソの元晴も激しく荒々しくホーンを吹き鳴らしていた。若者たちからの熱狂的に支持を受けていた。

続いての登場は、やはり大ベテランのバンド、結成44年目のタワー・オブ・パワーだ。バンド創立当時からメンバー、エミリオ・カスティエヨ(テナー、リーダー)とスティーン・ドクター・クブカ(バリトン)の二人が健在で、そこにバンド在籍12年目となったトム・ポリツァー(リード・テナー)が加わったサクソ

セクションは、流石のまとまりと絶妙なアンサンブルを聴かせた。そんな世界最高のアンサンブルの上に、ポリツァーのハイ・ノート・ソロが入るのだから、年季の入った音楽ファンどころか若い世代も交えての大熱狂である。曲も彼等のヒット曲が網羅されており、彼等への拍手が2日間のコンサートの中でも一番大きく激しかったと痛感した。

そのタワーのホーン・セクションも参加したのが、続くルーファス・フィーチャリング・スガ シカオのステージだった。ルーファスが自分たちのヒットを連ね、そこにスガが加わる。そこでは、日本のファンクを標榜するスガのヒット曲に、更にバックアップとしてタワー・ホーンズが加わったのだが、ルーファスとタワー・ホーンズのグルーブは当然ながらオリジナル・アメリカン・ファンクであり、息もピッタリ。だが、スガのそれはジャズ流の「ファンク」である。少々、というか結構な違和感は禁じ得なかったものだ。

大詰めとなった「PUT OUR HEART TOGETHER」と題された9日夜の部、トップ・バッターはベースを弾きながら歌うエスペランサ・スボルディングである。実にガーリーなファッションで登場し、ミニ・ビッグバンド編成のバックを従えて歌う。当然ながら話題の最新作「RADIO

ルーファス featuring スガ シカオ with Special Guests タワー・オブ・パワー Horns Section



ポップ・ジャム・クインテットのポップ・ジャムス(左)とデイヴ・マクマレイ

